Panasonic®

施工説明書

連続手すり
セット品

品番　Ｉ型セット　MFE1J他
　　　Ｌ型セット　MFE1L他
　　　内廻りセット　MFE1U他

※この商品は一般住宅およびそれに準じる居住施設の屋内専用です。　他の用途へのご使用はおやめください。
　屋外および浴室内部など頻繁に水分と接するところには使用しないでください。
■施工開始前に必ずお読みください。
■施工者の安全と使用者の安全確保のために、この施工説明書をよくお読みになり、安全で正しい施工を行ってください。
■この商品は、建築基準法などの法令·法規に従って施工してください。
■梱包材や残材は、法律に従って適切に処理してください。
■取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。（施工完了後、使い方を説明してください。）

安全上のご注意　必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

	してはいけない内容です。		実行しなければならない内容です。

⚠警告

禁止

●柱や下地の強度が不十分な場合は施工しない
※ねじをねじ込み、柔らかい木材や腐れ、虫食いなど、下地の状況を確認してください。

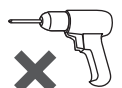
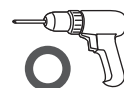
○	PB 12t — 柱	合板12t — 柱	PB12t / 合板12t — 柱
×	·しっくい / ·塗り壁など — 柱	胴縁 / ·化粧合板 / ·PB12tなど — 柱	PB12t / PB12t — 柱

●仮固定中の丸棒手すりとブラケットは故意に丸棒手すりを揺すったり、力を加えたりしない
丸棒手すり、ブラケットが落下し、けがをするおそれがあります。

●プラスターボードの二重貼りや胴縁施工GL工法、軽鉄など、柱や下地材から壁仕上げ表面まで12mmを超える場合は施工しない
ブラケットの外れ、転落、転倒事故の原因になります。

●塗装済み部材をシンナーなどでふかない
色むら・ツヤむらの原因になります。

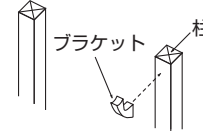
●次亜塩素系洗剤（漂白剤、カビ用洗剤など）でふかない
金属部のサビの原因になります。

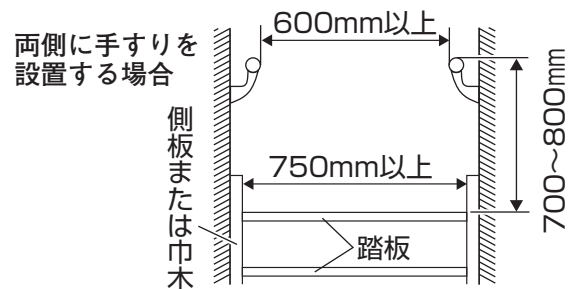
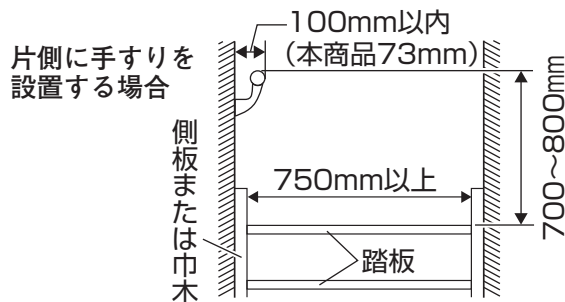
●各部材を取り付ける際、インパクトタイプの電動ドライバーを使用しない
ねじの破損や、取り付け不安定による丸棒手すりの外れ、転落·転倒事故の原因になります。

トルク調整タイプ

インパクトタイプ

⚠警告

必ず守る

- **本部材は、住宅の屋内においてのみ使用する。ただし浴室などの湿気の多い場所での使用はさける**
- **仮固定作業中は施工場所周囲に安全防護柵を施すなど、丸棒手すりが使用できないことがわかるようにする**
- **部材の仮置き保管は、湿気や直射日光の当たる場所を避け、床面が水平な場所に保管する**
  くされや材割れなどにより丸棒手すり部材が外れたり、折れたりして、転落事故の原因になります。
- **取り付けは必ず取り付け工事店が施工する**
  部材の反り、ネジレが発生し、取り付け不安定による丸棒手すりの外れ、転落・転倒事故の原因となります。
- **ブラケットの固定位置には必ず柱(木材)があることを確認する。または下地材（構造用合板 12mm 以上）を柱の所定の位置に取り付ける(下図参照)**
  ブラケットの外れ、転落・転倒事故の原因になります。
- **部材の固定は材割れ防止のため必ず下穴をあけ、同梱しているねじを使用し確実に締め込む**
  ねじの突出によるけがや、保持力不足による丸棒手すりの外れ、転落・転倒事故の原因になります。
- **本丸棒手すりには、部材・部品表(2 ページ)に記載されている金具を使用する**
  ねじやブラケットが折れ、転落・転倒事故の原因になります。
- **施工中に丸棒手すりに傷をつけて化粧シートが破れたり、めくれたりした場合は使用を中止し、すみやかに補修依頼を行う**
  そのまま使用すると手を切ったり、けがをする原因になります。

手すりの設置位置について

●図のように手すりの取り付け高さは段鼻、床の位置から700～800mm が一般的です。
（使用される方の使いやすい位置に設置してください。）
●階段有効幅は建築基準法に基づき、750mm 以上確保してください。
なお、図のように片側へ取り付ける場合、手すりの出幅が100mm （本商品の手すり出幅は73mmです)以内であれば階段有効幅の750mmに算入することができます。手すりを両側へ取り付ける場合は、手すりの突端間が600mm以上あることが必要です。(この場合でも階段自体の有効幅は750mm 以上必要です。)
■ 手すりの取り付け位置寸法を厳守してください。

部材・部品表

セット品

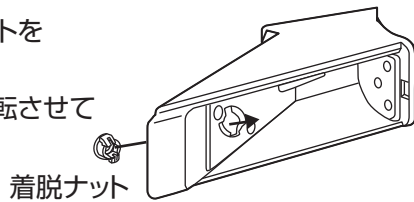
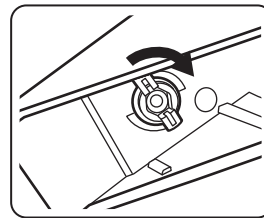
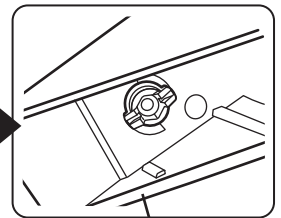
	品　番	梱包内容	
		手すり	金　具(個数)
内廻りセット(L=1300)	MFE1U○□	L=1292	出隅取付け用ブラケット(エンド金具同梱)×2 〔ねじ：皿φ4×50mm 3本 ナベφ3.5×25mm 3本〕×2
L型セット(L=600)	MFE1L○□	L=501	エンドブラケット×2 〔ねじ：皿φ4×50mm 3本 ナベφ3.5×25mm 2本 タップタイト皿φ3×8mm 2本〕×2 コーナーブラケット×1 〔ねじ：ナベφ4×50mm 3本 ナベφ3×25mm 4本〕×1
I型セット(L=600)	MFE1J○□	L=526	エンドブラケット×2 〔ねじ：皿φ4×50mm 3本 ナベφ3.5×25mm 2本 タップタイト皿φ3×8mm 2本〕×2

○：ブラケットの色記号　　□：丸棒手すりの色記号

内廻りセットの施工手順

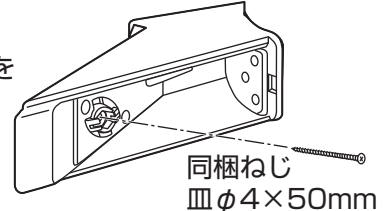
ブラケットを仮固定する前に

1.ブラケット本体と付属の着脱ナットを
　あらかじめ装着してください。

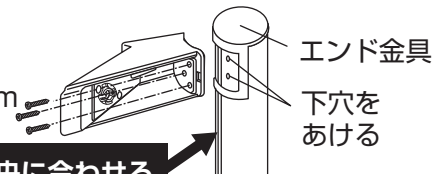
2.着脱ナットは時計回りに90度回転させて
　しっかりと装着してください。

手順 1：位置決め

手すりの取り付け位置を階段形状に合わせて決め、
必要な場合は丸棒手すりをカットします。
手すりの位置は階段や壁の形状によって変わります。
下記の取り付け位置参考資料でご確認ください。

手順 2：仮止め

ブラケットに装着した着脱ナットを
柱や下地材に仮止め固定する。

手順 3：ブラケットと丸棒手すりの固定

①ブラケットと丸棒手すりでエンド金具をはさみ、
　下穴(約φ2.5mm)をあけた丸棒手すりに密着させる。
②同梱ねじで固定する。

同梱ねじ
ナベφ3.5×25mm

エンド金具

下穴を
あける

溝は下側、ブラケット取付面の中央に合わせる

手順 4：手すり一式とナットの分離（着脱する場合）

ナットを反時計回りに回し、手すり一式とナットを分離させる。(**ブラケットを仮固定する前に** を参照)
※この時点では、ナットのみが壁にねじで取り付けられている。

【クロス貼り工程】 ※クロス貼りより前に仮施工する場合

下穴をあける

手順 5：ブラケットの固定

①再びブラケットを着脱ナットに装着し着脱ナットのねじを
　最後まで締める。
②出隅用ブラケットを同梱ねじで柱や下地材に2個所固定する。
③カバーをブラケットとエンド金具のツメに合わせてはめ込む。

①ねじを
最後まで締める

②

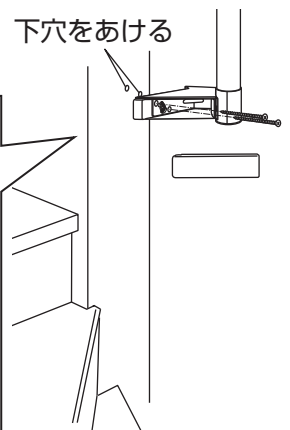
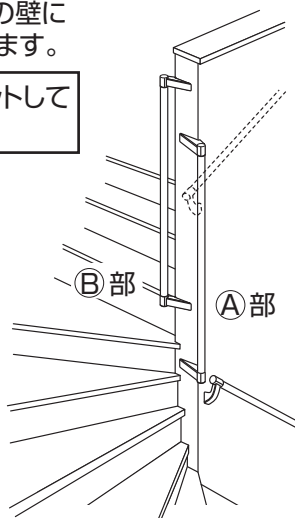
同梱ねじ
皿φ4×50mm

③カバー

手すりの取り付け位置（参考資料）

180度廻り部は内側の壁に
手すりを2本取り付けます。

長すぎる場合は、カットして
取り付けてください。

⚠警告

- **材割れ防止のため必ず下穴（約φ2.5）をあけてからねじを取り付ける**
- **材割れ防止のために、必ず溝を下にして取り付ける**

Ⓐ部
内廻り手すりと直階段部
手すりの高さをそろえるように
位置を決める。上端はセット品
の長さをそのまま使う。

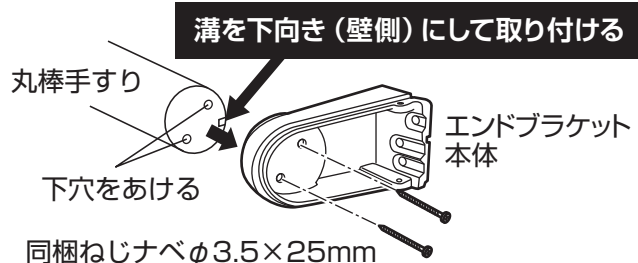
Ⓑ部
内廻り手すりの下端部の出隅ブラ
ケットを、廻った後の直階段1段目に
高さを合わせる。上端は笠木の下部
に合わせて丸棒をカットする。

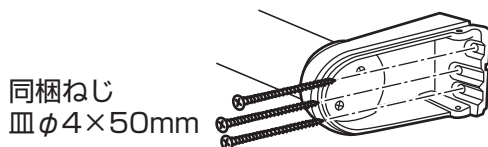
L型･I型セットの施工手順

手順 1：手すりの位置だし

（寸法は右図、L型セット･I型セットを参照）

手順 2：手すりとブラケットの固定

丸棒手すりに下穴（約φ2.5mm）をあけ
同梱のねじで固定する。

手順 3：ブラケットの固定

同梱のねじで下地材等に固定する。

手順 4：カバーの取り付け

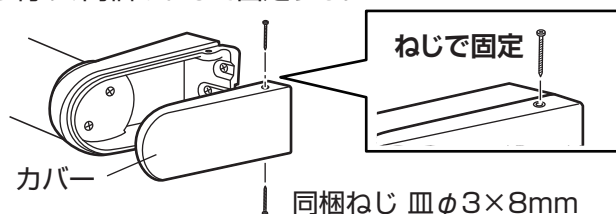
カバーをスライドさせて本体に
取り付け、同梱のねじで固定する。

L型セット

エンドブラケット
コーナーブラケット
600
手すり高さ
17.5
17.5
手すり
高さ
600
ブラケット取付
位置出しマーク

I型セットを縦に設置する場合、高さ方向は左記寸法、および手すり下端高さを目安に設置してください。

〈コーナーブラケットの場合〉

⚠警告

- **材割れ防止のため必ず下穴（約φ2.5mm）をあけてからねじを取り付ける**
- **材割れ防止のために、必ず目地を下にして取り付ける**

施工後の確認

■施工が完了したら、手すりにがたつきがないか、金具部のねじが確実に締結されているか、確認してください。緩みがあれば確実に締め直してください。

パナソニック株式会社　内装システムビジネスユニット
〒571- 8686 大阪府門真市大字門真1048番地

第 1 版
NSTR003
DC0414-0